



但馬国府・国分寺館ニュース

編集・発行

2010.9 第21号

但馬国府・国分寺館
Museum of Tajima Kokufu and Kokubunji

〒669 5305 兵庫県豊岡市日高町林布 808
TEL 0796-42-6111 FAX 0796-42-6112
http://www.city.toyooka.lg.jp/kokubunjikan/



さまざまな玉類
大師山古墳群（豊岡市加陽）
古墳時代

第21回企画展 いにしへのアクセサリー

私たちは「美しくありたい」と願っています。それは、他の動物が真似ることのできない人間独特の願望。人類は、社会生活を営み始めてから多くのアクセサリーを作り身に付けてきました。それは単にファッションではなく、呪術的な目的や、希少価値のある品物を持つことにより威厳を保つという意図もありました。

特に、弥生・古墳時代は、アクセサリーを身に付けることにより権力を誇示する時代でした。古墳に葬られた権力者たちは、死後もその権威を誇示するかのよう、多くのアクセサリーで飾られていました。

今回の企画展では、豊岡市内から出土した資料を中

心に、数々のアクセサリーを紹介します。きらびやかな展示品からその美しさを感じていただくとともに、どのような思いでアクセサリーを身に付けていたのか、いにしへの人々に思いを馳せていただければ幸いです。

■展示協力機関・個人（50音順・敬称略）

朝来市埋蔵文化財センター いずし古代学習館
京都市文化市民局文化財保護課 東京国立博物館
豊岡市立出土文化財管理センター
兵庫県立考古博物館 岡本一秀 中島雄二 藤田淳

● 美しさを求めて—装い—

なぜ、人はアクセサリーを身に付けるのでしょうか。縄文・弥生時代には、希少な石で作られたアクセサリーには特別な力が宿っていると考えられており、呪術者は他を圧倒する質と量で身を飾っていました。古墳時代になると、金・銀がもたらされ、アクセサリーは呪術的な役割から権力の象徴へと大きく変化しました。

奈良時代、律令制による身分制度の確立などにより、アクセサリーで権力を誇示する必要はなくなりました。そのため、江戸時代に庶民の文化が栄えるまで、日本人は長い間アクセサリーを身に付けることはなかったのです。なお、自分らしさを表現するためにアクセサリーを身に付けるようになったのは、ごく最近のこと。アクセサリーには、時代によってさまざまな意味が込められているのです。

● 頭を飾る

シャンプーやリンスが普及した現代に比べ、古代の人々は髪の手入れには苦勞していました。

髪の手入れに使う道具は、櫛くし。古代では、フケやシラミを取り除くため、目の細かな櫛が多く使われていました。櫛は髪型を整える機能よりも、髪の汚れを落とすための機能が重視されていたのです。

さらに『古事記』には、イザナギノミコトが櫛を投げ捨てて黄泉の国の追っ手から逃れたという記述があります。ここから櫛には、「別れ」や「絶縁」の意味が込められていると言われています。



たてくし
豎櫛

小山1号墳(豊岡市日高町)
／古墳時代



江戸の髪飾り
伝世品／江戸時代

● 顔を飾る

化粧は、現代の女性にとって欠かせない装いの一つ。弥生時代の日本について記した『三国志』魏書東夷伝(いわゆる魏志倭人伝)には「皆黥面文身」とあり、全身に入れ墨おしろいをしていたことがわかります。

現代の化粧につながる白粉は、古墳時代に遡ります。平安時代には公家を中心に白粉を塗る習慣が生まれましたが、庶民が化粧をするようになったのは江戸時代のこと。ただし、江戸時代以前の白粉は水銀でできていたため、水銀中毒になった人も多くいました。



化粧道具(お歯黒皿、お歯黒筆、剃刀、眉墨、紅血)
江戸～明治時代

● 耳を飾る

縄文時代から古墳時代にかけて、ピアスやイヤリングは、女性だけではなく男性も身に付けていた、ごく一般的な装身具でした。農夫と考えられる人物埴輪じかんにも耳環が表現されていることから、古墳時代にはイヤリングは農民層にまで広く普及していたと考えられます。

ただし、奈良時代以降は、大陸の新しい服飾制度が導入されたため耳を飾る習慣は廃れました。それから明治の西洋ファッションの導入まで、約1100年間も耳を飾る習慣はありませんでした。



金・銀の耳環

香住門谷5号横穴(豊岡市香住)／古墳時代

首を飾る

ネックレスやペンダントなどの首飾りは、弥生時代から古墳時代にもっとも多く見られるアクセサリーです。

首飾りは、^{まがたま}勾玉、^{くだたま}管玉、^{なつめだま}棗玉、^{うすだま}白玉、^{こだま}小玉、^{きりこだま}切子玉などの玉類を組み合わせ構成していました。玉類の材質は、古墳時代はじめまではヒスイが多数を占めていましたが、4世紀後半以降には^{へきぎよく}碧玉やメノウ、水晶などを使うようになります。

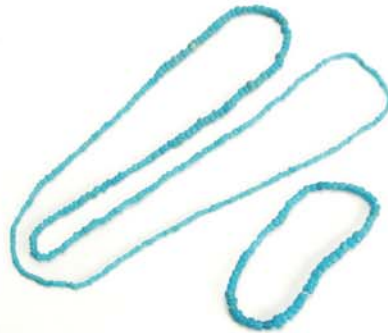
なお、古墳からは被葬者の首元から玉類がまとまって出土する例が多くあり、被葬者が直接身に付けていたアクセサリーと考えることができます。



装着状況がわかる玉類
豊駄坂舟隠9号墳（豊岡市駄坂）／古墳時代



骨や牙で作ったペンダント
駄坂川原遺跡（豊岡市駄坂）／弥生時代



ガラス玉
入佐山3号墳（豊岡市出石町）／弥生時代



碧玉製勾玉
出持古墳群（豊岡市竹野町）／古墳時代



玉類
篠谷2号墳（豊岡市出石町）／古墳時代

Topics こもちまがたま 子持勾玉

子持勾玉とは、大きな勾玉の表面に勾玉状の小さな突起があるもの。5世紀中頃から7世紀にかけて作られました。集落遺跡から出土することが多く、アクセサリーとして古墳に副葬された勾玉とは性格が異なります。玉のもつ霊力、特に増殖に関する呪術に使われたのではないかと考えられています。



馬場17号墳（朝来市山東町）／古墳時代
朝来市埋蔵文化財センター蔵

手・足・腰を飾る

古墳時代には、手・腰・足にも多くのアクセサリーを身に付けていました。人物埴輪にもアクセサリーで飾った人々が多く見られます。アクセサリーのうち、首飾りや耳環は階層や性別に関係なく認められますが、手・足に付ける玉類は上級階層の女性にしか見られないアクセサリーだったようです。

奈良時代には、男性は帯にアクセサリーを付けています。これは大陸の身分制度を導入したもので、材質や色が階層によって決められていました。



せきない
石帯
袴狭遺跡（豊岡市出石町）／奈良時代

鏡一姿を見る一

自らを装う時に必要なものは、鏡。現代の鏡は、ガラスに銀などを付着させて作りますが、江戸時代以前は金属を磨いて作っていました。

弥生・古墳時代の鏡は、姿見よりも祭祀道具や権威の象徴として利用されていました。光を反射して真実をありのままに写す鏡には、特別な力があると考えられていたのです。平安時代には、和風の文様で飾った和鏡が成立し化粧道具の一つとなりました。さらに、室町時代には柄鏡が出現し実用的な道具になりました。



珠文鏡
田多地引谷墳墓群（豊岡市出石町）
／弥生時代



四獣鏡
入佐山3号墳（豊岡市出石町）
／古墳時代



変形四獣鏡
下安良古墳（豊岡市出石町）
／古墳時代



珠文鏡
立石107-1号墳（豊岡市立石）／古墳時代



和鏡
豊岡市金剛寺／鎌倉時代



柄鏡
伝世品／江戸時代

お知らせ

企画展講座「なぜ化粧をするのかー装いの文化史ー」

日 時：平成22年10月16日（土）午後1時30分～
場 所：但馬国府・国分寺館 映像ホール
講 師：前岡 孝彰（当館学芸員）
＊聴講無料、事前申込みも不要です。

体験イベント「ガラスの勾玉を作ろう」

日 時：平成22年11月6日（土）午後1時30分～
場 所：但馬国府・国分寺館
参加費：500円
定 員：10名（事前にお電話でお申込みください）

但馬国府・国分寺館 ご利用案内



- 開館時間 午前9時～午後5時
（入館は午後4時30分まで）
- 休館日 水曜日（祝日の場合は開館し翌日を休館とします）
12月28日～1月4日
- 入館料 大 人 500（400）円
高 校 生 200（150）円
小中学生 150（100）円
＊（ ）は20名様以上
＊県内小中学生は無料
＊65歳以上の方は半額



ホームページ QRコード

■最新情報はホームページもご覧ください。
<http://www.city.toyooka.lg.jp/kokubunjikan/>

TOYOOKA
Toyooka City
Toyooka City
Toyooka City